

入社後

1. Q: 在日就職のビザの申請について(手続き、必要な書類)。

A: 必要な書類、原文のフォーマットは外務省のwebでダウンロードができます。必要な材料や書類は自分で簡単に準備できるので、不明なことがあれば会社の人事部の担当者に確認する。最後に資料を入国管理局に持参する。

2. Q: 日本語能力問題(日本人の同僚・上司とのコミュニケーションが問題になる。上司からのタスクへの理解)。

A: 日本語の勉強をやめず、例えば:先輩や友人(外国人)からアドバイスをもらう。先輩や友人(日本人)からネイティブな日本語を会話を通して学ぶ。さらにウェブサイト、役所の掲示版(市区町村もあり)から文化交流会に参加でき、日本人と話せるコミュニティもある。その他にもドラマや新聞などを読み、日常用語を身に付ける。

3. Q: 日本の企業文化に慣れる方法(企業の仕組み、お酒文化、社内ルール、挨拶)。

A: 例えば:大手企業の場合、積極的に社内活動やサークル活動などに参加する方法がある。さらに、新人研修時に企業の仕組み、社内ルール、挨拶など教育指導してもらえることが多い。中小企業の場合、先輩や同僚との関係距離が近い分、仕事に関することは手取り足取り教えてもらえるため、大手より成長性が高く見込まれる。

4. Q: 権益が損なわれた場合、解決方法は?(国籍差別・労働法違反し残業など)。

A: 大手企業は法律に関する部門に相談することが可能。中小企業:1.まずは上司に相談をする。2.もし解決が難しい場合であれば外国人インフォメーションセンターに相談する。(ネットで相談可能、無料)。3.それでも解決できない場合は労働局に相談する。

5. Q: 職場の人間関係について(職場の雰囲気に溶け込む、同僚と仲良くなる、いじめられたらどうする)。

A: 1社内活動やサークル活動があるならば積極的に参加した方がよい。
2先輩や上司を誘って一緒にランチを食べに行く。面識のない社員に誘われた場合は、一緒に参加すると仲良くなりやすい。
3そして他の社員から助けってもらったら、こころから感謝を持つのは一番重要。言葉や行動できちんと表せないといけない、日本社会でとても重要なルールである。
4わざと日本人に合わせるために自分を変える必要はない。自分の意見を主張することも社内の文化多様性環境の一つである。しかし、気をつけないといけないことは、文化の違いによってやり方や観念が衝突する可能性があるため、日本の文化を十分に理解した上で、自分の個性を維持しつつ相手を尊重するなど、バランスを取りながら日本人と交流をした方がよい。
5人間関係によりストレスなどを感じたときは、上司や先輩に相談すると良いかもしれません。メンタルクリニック(精神科医)に相談することも一つの選択です。

6. Q: 外国人社員と日本人社員は同じ扱いになるのか(評価・昇進のタイミング、賞与待遇など)。

A: なぜ自分が評価されないのか原因と理由を考え、わからない時は上司や先輩に助言を仰ぐ(=アドバイスをもらう)。アドバイス通り改善したにも関わらず、納得のいかない評価や待遇が続き、日本人と同等の扱いをしてもらえない場合は、転職を検討する。